

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

4&5

APRIL/MAY 2003

CONTENTS

- オペラの花束をあなたへXV1
アンネ・ソフィー・フォン・オッター2
[Portrait]高山三智子 / 「茨城の名手・
名歌手たち第14回」オーディション3
最近の公演から4~6
ネットマ7
インフォメーション8



写真上段;アンネ・ソフィー・フォン・オッター
写真下段・左から;佐藤美枝子、井ノ上吏、
大島幾雄、谷池重紬子



日本音楽界きっての名歌手たちによるアリアの花束を！ 4 / 19(土)オペラの花束をあなたへXV 華麗なるアリアの宴 & 椿姫 ハイライト

オペラの観どころ、聴きどころを畑中良輔のご案内でご紹介する人気シリーズ「オペラの花束をあなたへ」。15回目を迎える今回は、イタリア、フランス・オペラから選りすぐりの名アリアで綴る第1部「オペラ・アリア・アルバム」と、ヴェルディの歌劇 椿姫 から名シーンだけをまとめてお送りする第2部「ヴェルディ:歌劇 椿姫 ハイライト」の2部構成でお届けします。

出演者紹介

まずは出演する3人の歌手をご紹介します。今回も若手からヴェテランまで、当代きっての名歌手たちが集まりました。

ソプラノには佐藤美枝子が登場します。1998年にチャイコフスキー国際コンクールの声楽部門で彼女が日本人初となる第1位を獲得したことは記憶に新しいところでしょう。その後も着実にキャリアを積み、椿姫 のヴィオレッタ、リゴレット のジルダ、ボエーム のムゼッタなど当り役を次々と増やしてきました。水戸芸術館には96年「オペラの花束をあなたへ - IX ヴェルディ:歌劇 リゴレット ハイライト」、同年水戸室内管弦楽団第26回定期演奏会(指揮:若杉弘)に出演しています。7年ぶりの登場となる今回は、再び リゴレット のジルダのアリア 慕わしき御名 を歌います。当時すでにしっとりとした情感のあるコロラトゥーラを聴かせてくれた彼女の歌が、今回どのような成

熟をとげているのでしょうか。

テノールは水戸芸術館初登場となる井ノ上吏。イタリアものを中心としたレパートリーで現在注目を集める若手のひとりです。91年から95年にかけてイタリアに留学している間も、ミラノ、パルマ、ローマ等各都市でコンサートに出演しています。帰国後は カルメン や 椿姫 などの二期会公演に出演するほか、テレビ・ラジオ番組に出演するなど様々なメディアでも活躍中です。最近の公演では、2001年7月の二期会創立50年記念公演ヴェルディ ファルスタッフ にフェントン役で出演し、好評を博しました。今年も ばらの騎士、蝶々夫人 に出演を予定しており、今後ますます目が離せなくなる存在です。

そしてバリトンは大島幾雄。深みのある豊かな声と、シリアスな役からオペレッタまでこなす幅広い確な役づくりはさすがベテランの味。最近では、2002年二期会創立50周年記念公演 ニュルンベルクのマイスタージンガー で公演監督を務めながら自らもベックメッサー役で出演し好評を博しました。水戸芸術館には、昨年「オペラの花束をあなたへ ヴァーグナーの祭典」と「クリスマス・プレゼント・コンサート2002」に出演しました。大島は、「ヴァーグナーの祭典」で タンホイザーのヴォルフラム役などで重厚な歌を聴かせたかと思うと、クリスマスにはモーツァルト 魔笛 のパバゲーノをコミカルに演じてくれました。

以上のソリストに加えて、ピアノ伴奏には今年も谷池重紬子が登場します。オーケストラを思わせる華やかさに満ちたそのピアノが、歌手たちの咲かせる花々を薫り高く、色鮮やかに束ねてくれることでしょう。

椿姫 を室内楽ホールで鑑賞する愉しみ

第2部の 椿姫 ハイライトでは、簡素な舞台を作って、3幕に及ぶこのオペラの必聴の名シーンをコンサートホールで再現します。椿姫 のハイライトは当シリーズでも94年「ヴェルディ 椿姫」、99年「オペラ・ガラ・コンサート~4大オペラの名場面から」で取り上げました。当シリーズで最も高い人気を誇るこの演目が再び帰ってきます。どんな舞台になるかは来て見てのお楽しみです。

オペラ・ハウスの豪華絢爛なステージはもちろん夢のような魅力的な空間ですが、手を伸ばせば届いてしまうかのような演奏者たちと客席との近しさは室内楽ホールならではのものといえるでしょう。歌の細やかなニュアンスや、果ては歌手の足音や座る椅子の軋む音、また息遣いまでもが客席に伝わってきます。オペラハウスとは違うコンサートホールでのアリアの醍醐味を味わってみてはいかがでしょうか。 《松田》



写真左から：
アンネ・ソフィー・フォン・オッター
ベンクト・フォシュベリ

これは聴き逃せない！オッター、待望の日本での初リサイタルが実現。 5/2(金)アンネ・ソフィー・フォン・オッター メゾ・ソプラノリサイタル

ドイツ・リート第一人者

『フォン・オッターがドイツ・グラモフォン・レーベルではじめてドイツ・リートを録音したのは《マラー、ヴォルフ歌曲集》だった。それはリートのこまやかなひだに触れぬいた、これまでになく抑制のきいた繊細な歌いぶり、リート・ファンを驚倒させたものだった。彼女はリートの目につきにくい微視的な世界の拡大に成功し、そのデリケートなくまどりを実現した。(中略)彼女のおかげでドイツ・リートの内的世界は一挙に広がったと言っても過言ではない。』(喜多尾道冬氏、CD《シューマン歌曲集》のライナーノートより)

世界を股にかけて活躍するオペラ歌手という以上に、ドイツ・リートの第一人者として高い名声を獲得してきたスウェーデン出身のメゾ・ソプラノ、アンネ・ソフィー・フォン・オッター。20世紀後半にシューベルトやシューマンの歌曲全集を録音し、ありとあらゆるドイツ・リートを取り上げ、演奏史にその名を深く刻み込んだ不世出の名バリトン、ディートリヒ・フィッシャー・ディースカウがステージを去り、ぽっかりと穴があいたようになったドイツ・リートの世界に、彗星の如く登場し、あっという間に第一人者の地位を獲得してしまったのがオッターなのです。

幅広いレパートリー

しかし、そのオッターに「ドイツ・リートのスペシャリスト」というレッテルを貼るのは少々勇み足のような。オッターのデビュー・リサイタルは1978年。その時のプログラムは、ドヴォジャーク：歌曲集 ジブシーの歌、グリーグ：歌曲集 山の娘、ファリャ：7つのスペイン民謡 というものでした。ご覧のとおり、ドイツ・リートはまったく含まれていません。オッターは、「伝統的なリートよりも、民族音楽あるいは民族音楽からインスピレーションを得た作品のほうが、人間の感情をより直截に表現できる」と語っています。この言葉から想像するに、オッターのレパートリーは教科書を読み進むように広がっていったのではなく、オッターが素直に共感できる音楽を順不同で取り上げてきた結果のように思われます。1996年、《シューベルト歌曲集》の録音時には、何とドイツ・リートでは避けて通れない作曲家シューベルトに関して「その歌曲に対しては、どこか距離を置いているところがあった」と告白しているのです。

サロン風の歌曲を残したフランスの女流作曲家シャミナードの作品、知られざるオッフェンバック

の喜歌劇のハイライト、ロックの鬼才エルヴィス・コステロとのコラボレーションなど、私たちが予想だにできなかったレパートリーを、オッターは平然と披露します(そういえば、オペラではバロック時代の作品を得意としていたオッターが、1997年に突然 カルメン を歌ったのにも聴衆は驚いたものです)。それが奇をてらったものではなく、オッターの内面からの深い共感が発露したものであるからこそ、私たちに特別な感銘を与えてくれるのです。ちなみにこうしたオッターの、因習的な伝統やアカデミズムから開放された自在なプログラミングは、若い世代の有力株クリスティネ・シェファア(ソプラノ)やマッダレーナ・コジェナー(メゾ・ソプラノ)たちにも大きな影響を与えていることを付け加えておきましょう。

声の魅力

オッターの歌声は、何とも心地良いふくよかな響きと、北欧出身の歌手ならではの清澄で硬質な響きを兼ね備えています。その無限に広がるニュアンスの豊かさに、陶然としてしまうこともしばしばです。

また、その声の独特さについても触れておかねばなりません。出来るだけ声帯の負担を少なくして、効率よく声を響かせる歌唱法として知られる「ベルカント」は、その方法さえ身につければ誰でもある水準の声の響きが手に入る代わり、誰も彼も似通った声になりやすいという面があります(声帯を十分に使う日本民謡の発声法などは対照的です)。何人もの歌手の音源が収録されたオペラ・アリア集などのCDを聴いていて、誰が歌っているのか判別できなくなってしまうことがあるのは、ある程度致し方ないことなのです。

しかし、オッターの声を一度でも耳にしたことの

ある人ならば、その声を間違える人はいないでしょう。もちろんオッターもベルカント唱法の教育を受けているに違いありませんが、いつもベルカント100%で歌っているわけではなく、自身固有の陰影深い声そのものの魅力を減じさせない、彼女一流の発声法を併用しているように聴きとれます。そのとっておきの声と出会うのに、水戸芸術館コンサートホールATMのすぐれた音響と親密な空間がお役に立てることでしょう。

プログラム、その他

さて、リサイタルのプログラムは、前半がラーション、アルヴェーン、グリーグなどの北欧歌曲、後半がシューベルト、マラーなどのドイツ歌曲で組み立てられています。オッターの母国及びその周辺の国々の作品となる北欧歌曲は、オッターが最も大切にしているレパートリーのひとつであり、オッターの心のこもった表現が聴きどころとなるでしょう。後半は、シューベルト ます、シルヴィアに、マラー 子どもの不思議な角笛 など比較的有名な歌曲に、オッターがどのようにアプローチするかがポイントです。また、プログラム全編にわたり、デビュー当時から長年の伴奏者ベンクト・フォシュベリのサポートぶりにも耳をすませてください。

なお、オッターの来日にあわせ、《スウェーデン歌曲集》、《グリーグ歌曲集》など、今まで国内盤で入手しづらかったCDがDGより値下げして再発売されましたので、チェックしてみてください。また、近々、アバド指揮ヨーロッパ室内管弦楽団との《オーケストラ伴奏によるシューベルト歌曲集》などのリリースが予定されているようで、こちらも楽しみです。 《閑根》

必聴! オッターの歌曲アルバム3選



《モーツァルト、ハイドン歌曲集》
UCCA-3166

モーツァルトのオペラティックな天真爛漫さとハイドンの生真面目なユーモアをはっきりと描き分ける、オッターの知的な歌唱が楽しめる。メルヴィン・タン(フォルテピアノ)の繊細な語り口も聴きどころ。



《スウェーデン歌曲集》
UCCG-3480

ベッティン・ベリエル、コック、ステンハンマルなど、オッターの母国スウェーデンの作曲家によるめずらしい、しかし珠玉の作品がたっぷり味わえる1枚。ピアノはフォシュベリ。



《世界のフォークソング集》
POCG-10289

ドヴォジャーク ジブシーの歌、コダーイハンガリー民謡集、ブリテン フランス民謡集 ほか収録。フォシュベリの雄弁な伴奏の上で、粹にしなやかに歌うオッターの美声にひたすら酔える。



高山三智子

Portrait

ピアノの美しいメロディーが、一堂に会します。

4 / 25(金)高山三智子ピアノ・リサイタル

Portrait

水戸を拠点に精力的に演奏活動を続けられている高山三智子さんが、「茨城県在住の演奏家による企画」シリーズに、3年ぶりに登場します。今回、「来てくださるお客さんを、夢の世界へと誘いこみたい」と高山さんは、美しいメロディーがいつまでも心に残る名曲を贅沢にも一夜に凝縮したプログラムで、リサイタルに臨みます。

プログラムを考えるにあたり、真っ先に思ったのが、ベートーヴェンの作品を取り上げたいということだったそうです。そして、今回演奏されるのは、英雄変奏曲 作品35。この曲の主題は、英雄交響曲の終楽章やプロメテウスの創造物など、本作を含め4つの作品で用いられているほど、ベートーヴェン自身がお気に入りだったもの。ベートーヴェンの音楽には「勇気、希望、前向きに生きていこうとする姿勢を感じる。」と高山さんは語っています。

リスト作品からは 愛の夢 S.541 と ヴェルディの『リゴレット』による演奏会用パラフレーズ S.434。とりわけ リゴレット は、高山さんにとって思い入れの深い作品とのこと。ベルリンの留学時代、高山さんは毎日のようにオペラ劇場に足を運び、そのとき一番印象深かったのが リゴレットで、歌い手の名前は忘れてしまったが、ジルダ役が余りに素晴らしかったそうで、女性はこのように優しく美しくなくてはならないと感じたそうです。リサイタルでは、リゴレットのうち、ひろく親しまれている第3幕の四重唱の後半にもとづいた、リストによるパラフレーズ 原曲に華麗な装飾を施したものが演奏されます。

メンデルスゾーンの無言歌集 春の歌 作品62の6 と 紡ぎ歌 作品67の4 も、高山さんにとって思

い出の曲。高山さんは幼い頃、特にピアノが好きで習っていた訳ではないそうですが、小学校1、2年生くらいの時、ラジオから 春の歌 が流れてきて、お母様に「私もこんなきれいな曲を弾けるようになるかしら?」と尋ねたら、お母様は「世の中にはもっときれいな曲がたくさんあって、あなたもいつか弾けるようになりますよ。頑張りましょうね。」とお答えになったそうです。一方、紡ぎ歌 は、学生時代に毎日コンクールを受けた時の課題曲であったそうです。メンデルスゾーンが描いたサロンの優雅な世界を高山さんが表現します。

ドビュッシーの 月の光 は、誰もが好きな曲というのが高山さんの評。今日に至るまで、高山三智子さんの最大の魅力は、音色の美しさにあります。モスクワ音楽院でヤコフ・フリエール教授に師事した高山さんだけに、ロシア音楽の演奏のすばらしさというのを私達はまず思い浮かべるのですが、実は、和声的な色彩に富むドビュッシーの音楽というのも、彼女の魅力が大いに発揮されるレパートリーなのです。月の光 は、美しいメロディーが煌びやかな月の光を暗示する作品です。

シューベルトの 楽興の時 第3番 は、NHKラジオ音楽の泉 で堀内敬三氏が進行役をしていた頃のテーマ曲だったもの。高山さんはそれを聴いて、「何だか楽しいことが遠くからだんだん近づいてきてまた遠ざかっていくという感じが、目に見えるような魅力的な作品」と思ったそうです。この曲の初版の楽譜には「ロシア風エール」というタイトルが付けられていて、当時高山さんは、この曲の副題を知らずに魅了されたのだそうですが、今振り返ると「ここでもロシアとの縁があったのだ、やはりロシアの音

楽が好きなのだ。」とお感じになっているそうです。

美しいメロディーを残したピアノ作家といえば、欠かせないのがショパン。今回演奏されるのは、子犬のワルツ 作品64の1と 別れの曲 作品10の3。

子犬のワルツ は、師・ヤコフ・フリエール教授もアンコールなどでしばしば演奏した曲で、フリエール教授は「音楽会というのは聴衆の心を楽しませるものでなくてはならない」とおっしゃられていたそうです。別れの曲 は、ショパン自らがこのような美しい旋律を一生の間に書いたことがないと語ったといわれている作品です。

そして、演奏会を華麗に締めくくるのは、高山さんの最重要レパートリーであるロシア音楽からラフマーニノフの 6つの楽興の時 作品16 の第1、2、3、4番。「ロシア人の心にぴったりくる節回しをもつのがラフマーニノフの音楽。そして、たとえばベートーヴェン作品ががっちりした構成力の音楽であるとするならば、ラフマーニノフ作品は感情面が表に押し出された激情の流れの音楽のようだ」と高山さんは語っています。6つの楽興の時は、第2、4、6曲が動きの速い激しい性格の音楽であり、第1、3、5曲が情緒豊かな歌謡的な性格の音楽というように、対比的な構成が魅力の作品。高山さんのラフマーニノフ作品の演奏に期待がかかります。

「息をつめないで楽しんでいただけたらと思います。そして、失われてしまった素晴らしいものが、音楽の中には沢山詰まっています。それを探しに音楽会にどうぞお越しください。」と高山さんは話を締めくくられました。高山さんが追求する音楽の世界に、皆さんも触れてみませんか。

《中村》

明日の時代を担う名手がここから巣立つ!

5 / 11(日) 茨城の名手・名歌手たち第14回 出演者オーディション

茨城県にかかわりのある音楽家を広く紹介する演奏会「茨城の名手・名歌手たち」。9月13日(土)に予定される演奏会に先立ち、5月11日(日)に出演者オーディションを開催します。オーディション合格者のさらなる精鋭化を図るため、昨年より部門ごとに隔年の開催となりました。今回の審査対象は、「管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル」の各部門となります。

「茨城の名手・名歌手たち」は過去13回の歴史を重ね、地元演奏家の登竜門として広く知られています。すでにご紹介した合格者の数は、204名

(ソロ)と9組(アンサンブル)にのぼり、皆さん演奏や教育の分野で様々な活躍を続けています。中には、第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位の小泉恵子さん(ソプラノ)、ロン=ティボー国際音楽コンクール第5位の大崎結真さん(ピアノ)、第66回日本音楽コンクール第2位(1位なし)の清水良一さん(バリトン)など、国内外の大舞台で活躍する音楽家もここから巣立っています。また、合格者の方々には、「クリスマス・コンサート」「プロムナード・コンサート」「ヴァリエーションズ」「市民オペラ」「市民芸術祭」など、水戸芸術館の他

の企画にも様々な形でご出演いただいています。

オーディションは、茨城県に関わりのある方(本籍がある、居住しているなど)ならばどなたでも参加できます。年齢制限はなく、参加料も無料です。参加ご希望の方は、急ぎ応募要項をご請求ください(参加申込の受付期間は4月4日から4月25日まで)。

また、オーディションの様子は無料で一般公開されます(詳細はお問い合わせ下さい)。明日の時代を担う「名手・名歌手たち」を探しに、ぜひコンサートホールへ足をお運びください。《関根》

最近の公演から

DECEMBER
JANUARY



1



2



3



4



5



6



7



8

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第2期 第2回 橋本国彦(12月7日)

昨年度から始まった日本歌曲の公開セミナー。講師・畑中良輔のユーモアを交えたレクチャーと、受講生の方々の熱心な姿が毎回好評で迎えられている。通算第5回となる今回のテーマは橋本国彦。黴斑猫舞など、橋本が当時最先端の作曲技法を駆使して書いた難曲に、小松由美子さん、杉山知勢子さん、茅根順子さん、廣澤敦子さんの4人の受講生が挑戦した。講師の畑中は今回も「日本歌曲は間(ま)が大切」と強調。それに次のように付け加えた「でも意図的なのが見えてはいけない。あくまで自然でなくては」。そう言い、音と音の間の流れを独特の手振りで受講生たちに示して見せた。また歌唱法だけでなく、橋本歌曲を歌う上で必要となる歌舞伎や長唄の知識についても詳しく解説。「橋本先生はあらゆる作曲家のスコアを暗譜されていた」など生前のエピソードも交えられた。聴講された方にとっては橋本作品を多面的に捉える機会となったのではないだろうか。レッスン後のミニ・コンサートには第1期に続き登場の青山恵子が、深みのある声色と幅広い表現力で斑猫 お菓子と娘 お六娘 を聴かせてくれた。《松田》アンケートから とても勉強になる。音楽の奥深い所の話。滅多に聞けないもの。ユーモラスな解説も楽しい。(日上市:K.I.さん)

アートタワーみとスターライトファンタジー 第7回クリスマス・コンサート

[市内小中学校 芸術館コンサート] (12月8日)

アートタワーみとスターライトファンタジー実行委員会との共催による、子供たち手作りのクリスマス・コンサート。嬉しいことに、回を追うごとに参加校が増え、今回は水戸市内の17校22団体、総勢785名の生徒たちが午前と午後に分かれて出演した。

当初は金管合奏や吹奏楽の団体が圧倒的に多かったが、最近は合唱、ハンドベル、リード合奏、リコーダー合奏など、様々な演奏形態の団体も加わって、このコンサートを一層華やかに盛り上げている。今回は、少人数のア・カペラ・コーラスでスマップやケミストリーのヒット曲を熱唱した第一中学校、対照的に104名の大合唱で豊かな歌声を響かせた双葉台小学校、大小さまざまリコーダーを駆使して楽しいアンサンブルを聴かせた双葉台中学校、寸劇やダンス混じりの金管合奏で客席を沸かせた笠原小学校、

酒門小学校などが印象に残った。もちろん、第一中学校や第四中学校などの本格的な吹奏楽演奏が、満場のお客様の傾聴を誘っていたことは、忘れずに記しておく必要があるだろう。

クリスマスの華やぎの中、いかに聴いている人たちに楽しんでいただけるかを競い合う子供たちの輝いた表情がまぶしかった。《関根》

福祉施設訪問コンサート(12月13日)

茨城県立盲学校、茨城県立水戸飯富養護学校

5年目を迎える専属楽団メンバーによる訪問コンサート。今年は水戸室内管弦楽団メンバーの永島義男さん(コントラバス)そしてピアノの美野春樹さんのお2人にご登場いただき、茨城県立盲学校(昨年に引き続き2度目)、茨城県立水戸飯富養護学校の2校を訪問しました。プログラムは次の通り ケーセヴィツキー: 小さなワルツ 作品1の2、パガニーニ: ロッシーニのエジプトのモーゼによる幻想曲、ポッテジーニ: エレジー 二長調、クリスマス・メドレー(美野春樹編曲)。コントラバスを生で弾くのは初めてという生徒さんも多かったのですが、巨匠マッテオ・ゴフリツェール製作の名器を鮮やかにひきこなす永島さんの妙技に拍手喝采。盲学校ではひとりの生徒さんに実際に弓でひいてもらうというひと幕もありました。このコンサートのためにクリスマスにちなむ有名曲を楽しいメドレーに編曲くださった美野春樹さんの、頼もしいサポートが先特記しておきましょう。笑顔に包まれた生徒さんたちに、よいクリスマスが訪れたことを。《矢澤》

クリスマス・プレゼント・コンサート2002

(12月23日)

毎年ヴァラエティに富んだプログラムと畑中良輔の楽しいおはなしで好評いただいているクリスマス・コンサート。今年は過去最多の8つのステージをお届けした。一昨年、昨年に続き、水戸在住のピアニスト中村真由美、中村佳代姉妹が開幕ステージに登場。2台ピアノで華やかなアンサンブルを披露した。中村佳代はこの後第3ステージでメシアン 幼子イエスに注ぐ20のまなざし より 幼子イエスの接吻 を演奏した。また、今年は大島洋子、星洋二、服部洋一、大島幾雄の4人の声楽家がステージに揃った。メインとなったのはシューベルトの音楽小喜劇 婚礼の焼肉。衣裳を着けての10分程度の短い上演だが、星と大島洋子演ずる婚約者と、大島幾雄演ずる森番との絶妙なやりとりで、会場は

1~2. 日本のうた セミナー 3~4. アートタワーみとスターライトファンタジー第7回クリスマス・コンサート
5~7. 福祉施設訪問コンサート 8. クリスマス・プレゼント・コンサート2002

大いに沸いた。「焼肉」にされる「兎」の助演者・鎌形由貴乃にも大きな拍手が送られた。各ソリストは別のステージでそれぞれ得意のレパートリーを披露。大島洋子と星洋二はイタリア歌曲を、大島幾雄と大島洋子はモーツァルト・オペラの二重唱を聴かせた。また、服部洋一はアイルランド民謡とスペイン民謡を披露した。彼ら音楽陣の脇を固めていたのは谷池重紬子と千田悦子。谷池は4つのステージで大活躍。千田もアイリッシュ・ハーブの典雅な響きで服部のアイルランド民謡を彩った。最後を締めくくるキャロルのステージは、中澤敏子指揮・カラコレス女声合唱団と野ばら会による合同合唱団が務めた。ステージでの演奏が終ると、合唱団はエントランス・ホールへ移動。パイプオルガンの伴奏で再びキャロルを歌い、聖夜の厳かな雰囲気の中、コンサートは幕を閉じた。

なお、昨年に続き休憩前のプレゼント抽選会を実施。吉田秀和館長はじめ畑中良輔、池辺晋一郎、間宮芳生、若杉弘各企画運営員のCDや著作など10点が当選者に贈られた。《松田》アンケートから いつもクリスマス・コンサートを聴かせていただいております。子供にも親しみやすいコンサートで、とても楽しめました。畑中先生のわかりやすい解説付きなので本当によかったです。オペラもよかったです。最後のパイプオルガンでのクリスマス・キャロルはいつも感動的です。(栃木県小山市:H.I.さん) 2台ピアノの息の合った演奏に聞きほれました。もうすこし聴きたかったです。来年を楽しみにしています。メシアン曲、素晴らしい中村佳代さんの演奏に感動しました。歌もすべてすばらしかったです。(無記名の方) 前回は来たけれど、今回は寸劇なども入っていて、楽しかった。みんな歌っている時の表情がとても楽しそうで、見ているこっちまで気持ち良くなりました。来年も期待していますっ♥(水戸市:R.S.さん)

 ニュー・イヤー・コンサート2003(1月5日)

世界的には相変わらず不穏な出だしの2003年...って、これ去年も書いたフレーズですよ。しかも去年よりさらに雲行きが怪しいという...めげずにいきましょう。まずは音楽!“Apassionada!”のタイトルのもとラテン諸国の音楽を集めた今回のニュー・イヤー・コンサート、おかげさまで昨年よりさらに早く、12月上旬には完売御礼。プログラムは以下の通りです。ヴィヴァルディ:協奏曲集 作品3 調和の靈感 から第1番 二長調 RV549 第1楽章 アレグロ/コレッリ(フィッツジェ

ラルド編曲):ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ集 作品5から 第8番 ホ短調(トランペット版)/フランセ:ディヴェルティスマン/サラサーテ&ワックスマン: カルメン幻想曲 /アルベニス:組曲 スペイン 作品165から タンゴ/ヴィヴァルディ:協奏曲集 作品3 調和の靈感 から第10番 口短調 RV580/カザルス(フォン・トーベル編曲): 東方の三賢人 /【以下、小松亮太&ザ・タンギスツのコーナー:ポンティエル: 1940年代のミロンガ /ドナート: 淡き光 /ピアソラ: 92丁目目通り /同:五重奏(キンテート)のための協奏曲/(アンコール) ラ・クンパルシータ】/ヴィラ-ロボス: ブラジル風パッサ 第9番/ボッケリーニ ピアノ五重奏曲 八長調 作品57の6 G.418から 第3楽章 “マドリッドの帰営ラッパ”(弦楽合奏版)。昨年に続いての古谷敏郎氏の司会、プレゼント・コーナーも大好評。そして小松亮太&ザ・タンギスツの熱演に加えて、ヴィラ-ロボスでは 堀 伝が指揮! 皆様の一年が元みなぎるものとなりますよう...。《矢澤》アンケートから 芸術館初めてのコンサート。生の演奏にしびれました。司会も上手で楽しさ一杯でした。又、小松亮太さんのバンドネオン演奏が力強く、もの悲しく印象的でした(水戸市:H.N.さん) 大変に感激致しました。この不況を吹き飛ばし、元気に生きる力をもらった気がします(水戸市:Y.I.さん) 小松亮太さんのバンドネオンはとても素敵でした。子どもも身をのり出させてきていました(水戸市:K.H.さん) 加藤さんのカルメンは野性的といったら失礼ですが、情熱的ですがによく似合っていますね(T.H.さん) 堀さんの指揮もよかったです。(初々しく感じました!) (水戸市:N.I.さん)

 プロムナード・コンサート

クリスマス・スペシャル(12月20、22日)

ヴァリエーションズ(1月18日)

プロムナード・コンサートの年末とお正月のスペシャル企画を2つ開催した。

ひとつはクリスマス・スペシャル。県立水戸第二高等学校コーラス部が出演した。指揮は同コーラス部を指導されている齋藤由美子先生。さらにオルガンの板垣敬子が加わった。プログラムは きよしこの夜、鐘のキャロル、オー・ホーリー・ナイト などクリスマスにちなんだお馴染みの曲の合唱と「ヴィエルヌ:ウェストミスターの鐘」などのオルガン・ソロという構成。高校生たちの清楚で伸びのある歌声は、本当に神聖なものと感じられた。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9





1



2



3



4



5



6



7



8

もうひとつは、年が明けての「ヴァリエーションズ」シリーズ。プロムナードでもお正月気分?! ということで、岡本孝司(尺八)と岡本千邦子(箏)による演奏会を実施した。プログラムは沢井忠夫: 風の歌、吉沢検校: 千鳥の曲、山本邦山: 壺越 など。ユニークだったのは、おふたりにとっては流行する前から取り上げてきているという 大きな古時計 の演奏。箏がコチコチと時計の音を模し、尺八がこの楽器特有のふし回しを伴いつつメロディーを奏でた。その後しばらくの間、尺八が奏するそのオリエンタルな古時計の旋律が体のなかに棲みついていた。 《中村》

中学生のための芸術鑑賞会

(1月24、28、29日)

水戸市立中学校全15校および茨城大学教育学部附属中学校と茨城中学校の1年生に水戸芸術館のコンサートホールで、クラシック音楽の生演奏を体験していただく開催する演奏会が「中学生のための芸術鑑賞会」。共催は水戸市教育委員会。11回目となる今回は、水戸室内管弦楽団のメンバー・久保陽子(ヴァイオリン)、森枝繭子(オーボエ/イングリッシュ・ホルン)、椎名雄一郎(オルガン/チェンバロ)の出演でお届けした。プログラムは、それぞれの楽器の独奏曲(フォーレ: 夢のあとに、グノー: アヴェ・マリア など)をまず聴いてもらい、最後に出演者全員の三重奏曲(伝バッハ: トリオ・ソナタ BWV1037)でアンサンブルの美しさを感じてもらおうという構成であった。演奏の合間には、NHK水戸支局のアナウンサーさん(24日: 長野智子/28、29日: 佐藤瞳)の司会で演奏者が楽器の構造や演奏にまつわる苦労話などを紹介した。印象的であったのは久保さんが初めて手にしたヴァイオリンの話で、戦後間もない奄美大島で、久保さんのお父様は、米軍から配給されたミルクの空き缶で、ヴァイオリンを作ってくれたそうだ。志をもって努力をすればどのような状況にあっても道は拓かれる 久保さんの話には、そうしたメッセージが隠されていたのではないだろうか。 《中村》

中学生のアンケートから 今回は初めて生でクラシックを聞きました。「クラシックは奥が深いんだなあ」とあらためて感じました。(国田中: Y.E.さん) リゲティのハンガリアン・ロック がとてもいいと思った。リズムカルで演奏者の手がとても早くてすごいなあと思った。生まれてきてこの音楽をきけてよかったと思っています。(第一中:

T.M.さん) 今までしくは、音楽にはあまり興味がなかったのですが、今回の芸術鑑賞会で音楽のすばらしさというものに気づいたような気がします。(常澄中: O.さん) 世界で通用するためにはこのくらいまでいかないとダメなのかとびっくりした。(第二中: Y.M.さん) 次は家族で行きたい。(笠原中: A.M.さん)

ちょっとお昼にクラシック2(1月29日)

週末の夜など通常のコンサートが開催される時間にはなかなか外出できないような、主婦の方やご年配の方などにも、演奏会をお楽しみいただく! と平日の午後に開催するシリーズが「ちょっとお昼にクラシック」。第2回となる今回は「エレガントな気分で三重奏はいかが」と題し、1時間のプログラムをお楽しみいただいた。出演者およびプログラムは、上記「中学生のための芸術鑑賞会」と共通。両方の公演を開催してみて、優れた演奏に触れ、心をときめかせるということに年齢は関係ないということをあらためて感じる。久保さんのバガニーニ: パイジエツォの 水車屋の娘 の“うつろな心”による序奏と変奏曲では、ブラヴォーの声が挙がる一幕も。 《中村》

アンケートから まことにエレガンス。最高の気分を味わうことができました。トリオのハーモニーを満喫! 本日のバガニーニの演奏にはただただ感動しました。魂に響く演奏に感激しました。いつまでも心に残ります。(水戸市: H.S.さん) それぞれの楽器の音色の特徴がよく生かされていて、楽しく聴かせていただきました。合間の演奏家の方々のお話しもよかったです。楽器を演奏されるにあたっての意気込みや楽器への愛着も伝わってきて、あたたかい気持ちになりました。次回のコンサートも楽しみです。(水戸市: M.O.さん) それぞれの楽器の音色に魅せられました。特に久保さんのヴァイオリン素晴らしい!! もっと聴きたい!! と思いました。割安な価格で短時間でも一流の音楽にふれる機会を与えて下さり、水戸市民の芸術館としての位置づけに努力して下さっている事に感謝いたします。高齢者にとっても癒しの時が持てるという事は本当に有難いと思っています。(水戸市: R.K.さん) 久保陽子さんの演奏と人柄に魅了されました。サン・サーンスの超絶技巧、堪能いたしました。この種のコンサートはクラシックファンの底辺を広げることと思います。同様の企画をぜひ続けてください。(石岡市: N.Y.さん)



* nettama= ネットワークする猫、タマ。
芸術館のコンサートをサカナに
いろんなところへnettamaします。

復活しました。

みなさん、お久しぶりです。僕のこと、覚えてますか。タマなんですけれど、活字だとわかんないかもしれないけど、なんかあんまり久しぶりなんで、ちょっと自信がなくて、小声でしゃべってるんですよ。この2回、どちらも合併号だったから計4か月、「ジカダンパン」問題で僕の出る幕なかったですからね。まあ僕がなんやかや言うよりも、たくさんのお客様から寄せられた暖かいメッセージや熱い提言、ご支援の言葉で紙面は十分に埋まっていたからね。え？ご存知ない？ならばぜひ前号と前々号、それからネット上の「ジカダンパンファイル」<http://www.arttowermito.or.jp/jika/jikalist.html>をぜひご覧くださいな。で、お前がこの件について言うことはないのかって？そうですね...もちろん水戸芸術館はこれまでも増して広報宣伝活動に務めなくちゃならないし、もっとよくしていく努力を怠っちゃいけないのだけど、ただ批判するメディアの方に申し上げたいのは、やっぱり芸術館でやっていることをもっと観てからにしたほうがいいんじゃない、ということかな。コンサート終了後のあの万雷の拍手を一度も見たことないのに、血税のムダ使い!!みたいに力むのはどうなのかな? 「中学生のための芸術鑑賞会」で目を輝かせ、「野村誠のファミリー・ワークショップ」で生き生きと音楽を創る子供たちを見たら、けっこう考え変わるのでは? それに何より企画した演奏会を成功させ、「名手・名歌手たち」や「ヴァリエーションズ」で活躍する地元演奏家の方々の姿を、もっと見てほしいと思う。幸い、地元のメディアは、こないだのMCO第53回定期演奏会を集中的に取材して連載記事を掲載した読売新聞水戸支局や、ATMアンサンブル第18回演奏会を取材し、熱い筆致で演奏会をレポートした茨城新聞など、芸術館が「何をやっているか」に注目して取材している。こういう記事から議論が健全に活発化してゆくなら、それはとてもいいことだと思うのだけれど。

まあ、なんとなく熱くなってしまいそうなので、この話はこれまで。実はATMアンサンブル第18回演奏会(シェーンベルクとブルックナー

のプログラム)を聴きながら、いろいろ思っていた。ブルックナーって人は、難儀な人だったんだなあ。あんまりにも生真面目すぎて、周囲に振り回されっぱなしだった。音楽史上類例のないユニークな交響曲の大作を(いわゆる0番と0番は別にして)9曲も書いたのだから、同時代の聴き手の中で賛否両論が起ころのは仕方ないとしても、あんまりにもナイーブだった。批評家に毒づかれて神経衰弱になってしまうのはまああり得ることかもしれないけど(でも晩年、皇帝に会った時「批評家に私の悪口をやめさせるようにしてください」と頼んだのはスゴい)取り巻きの支持者に「もっと直してわかりやすくした方がいい」と言われるとたちまち不安になって改訂を始めてしまう。それどころか、弟子が好き放題に(善意からではあるが)改竄した版で演奏したり出版したりすることさえ、止めることができない。おかげでブルックナーの版問題はややこしいの極みだ。でも、ブルックナーはどこかで自分の内なる声を信じていた。自分自身にとっての決定稿を、ちゃんと図書館に寄贈しておいた。そして没後何十年も経ってから、その真の価値が後世の人間によってようやく認められたというわけだ。

もしブルックナーが今の世に生きていたらどうだったろう? すさまじい報道の荒波に翻弄され、彼の生涯でいうなら第3交響曲の初演が失敗したあたりで、作曲はあらかん人生すらすらやめちゃうんじゃないだろうか? それともその天然なキャラが珍獣として面白がられて、ピエロのように生きることを要請されるのだろうか? いずれにせよ、信じることを貫くということが、彼の生きた時代に比べても、実はいっそう難しい世の中になっているんじゃないだろうか。だからこそ、僕らはそれをやり続けなくちゃならないのだけれど。

やっぱり重くなっちゃったね。素敵な投書が一通来ているのでご紹介しよう。本当は次号で演奏会レビューと共に紹介すべきかもしれないけれど、MCO第53回定期演奏会の際に実施した学生のための公開リハーサルに会場された、常磐大学高校音楽科の先生、井上圭子さんから届いたメールだ。「今日は、吹奏楽

部の生徒を連れて行きましたが、小澤さんの音楽へのこだわりや、団員一人一人が良い音楽を作るためにみんなで意見を出し合ったりしている姿を目の当たりにして、感激していました。微妙なテンポの設定のこだわり、音量的こと、さらにステージの配置まで、本当にみなさん一生懸命でしたし、それが客席にしっかりと伝わりました。現にホルンがオーボエの隣に移動した途端、木管とホルンのアンサンブルがとても良くなり、同時にホルンの音色まで美しく聴こえてくるようになったのには、驚きました。その提案をしたのが間に挟まっていたフルートの工藤さんだったというあたりも、さすがというところ。ところで一方では、「あの大きなオルガンみたいな物は一体なに?」「譜面台の高さを自分で直しちゃいけないの?」「小澤さんは指揮棒を持たないの?」のような素朴な疑問もたくさんあるようで、ステマネという仕事のことなども説明してあげたいと思っています。小澤さんには将来、バーンスタインのYOUNG PEOPLES CONCERTSのようなことも是非やってほしいと思っています。明日から本公演が始まり、お忙しい事と思いますが、たくさんの方に良い音楽を聴いていただいて、水戸の、いや日本全体の音楽の発展の為に頑張って下さい。高校生にも又、今日のような機会を作って下さいますようお願い致します。」高校生たちが大人になって子供や生徒を連れて芸術館にやってきて「小澤さんももう80代半ばだけど、まだまだ元気だなあ。僕らが高校生の時には、モーツァルトづくしのプログラムやってね...」なんて自慢する、そんな光景が10年、20年後に現実のものとなってほしい。いやきっと、するはずだ。



今月、タマが原稿書きながら聴いていたCD。
クレンペラー指揮するブルックナーの交響曲第7番
(英EMI 5 67330 2)

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029 - 231 - 8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029 - 227 - 8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】木曜日18:15頃 ~ 15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

茨城県在住の演奏家による企画を募集します。.....
平成16年度の茨城県在住の演奏家による演奏会企画を下記の要領で募集いたします。【応募要項請求方法】 直接水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター(9:30-18:00 月曜休館)までご来館いただく。80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛てご郵送いただく。下記宛てFAXでご請求いただく。【応募対象】茨城県在住の音楽家または団体。ただし、平成14年~15年度と連続でご出演された方は応募できません。【受付期間】2003年5月10日[土]~5月24日[土](当日必着)【結果の発表】2003年8月頃【開催時期】平成16年度(2004年4月~2005年3月)【提出資料】所定の申し込み用紙 これまでの演奏履歴を示す資料(演奏会チラシ等) 住民票の写し 2003年1月1日以降の演奏のデモテープ(またはDAT、MD)【問い合わせ先】〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130(担当:矢澤)

畑中良輔の 日本のおうた セミナー第3期受講生募集.....
一昨年度から始まった日本歌曲の公開セミナー。第3期を迎える平成15年度は、平井康三郎、別宮貞雄、中田喜直の作品を研究します。講師は音楽部門芸術総監督の畑中良輔。今年度もたくさんのご応募をお待ちしております。詳しくは応募要項をご請求下さい。[応募要項の請求方法] 水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターに直接お越しいただく。80円切手を貼付した返信用封筒(返信先を明記)を同封の上、下記問い合わせ先宛封書でご請求いただく。下記問い合わせ先宛FAXでご請求いただく。日程 2003年8月3日(日) 10月19日(日) 2004年1月18日(日) / 応募受付期間 4月25日(金)~5月6日(火) 当日必着 / 結果の発表 6月上旬予定 / 問い合わせ先 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館 音楽部門 日本のおうた セミナー係 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130(担当:松田)

チケット・インフォメーション 4月12日(土)発売分.....
水戸室内管弦楽団第54回定期演奏会
6/7(土)18:30開演、6/8(日)14:00開演
料金(全席指定):S席¥6,000 A席¥5,000 B席¥4,000
水戸室内管弦楽団第54回定期演奏会には、4月9日(水)より友の会の先行電話予約があります。

これからの演奏会・残席情報.....
○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右...裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席
オペラの花束をあなたへ - XV 華麗なるアリアの宴&
椿姫 ハイライト 4/19(土) ...中央x、左右・裏
高山三智子 ピアノ・リサイタル 4/25(金) ...自由席
アンネ・ソフィー・フォン・オッター メゾ・ソプラノ リサイタル
5/2(金) ...中央x、左右・裏
3/6(木)現在の状況です。
公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。
固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な4・5月のスケジュール

コンサートホールATM

水戸芸術館友の会結成10周年記念事業
河原泰則&ラファエル・オレグ デュオ リサイタル
4/18(金)19:00開演 料金(全席指定):一般¥3,000 学生¥1,000 友の会会員¥2,000
オペラの花束をあなたへ 華麗なるアリアの宴& 椿姫 ハイライト
4/19(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500
高山三智子 ピアノ・リサイタル
4/25(金)18:30開演 料金(全席自由):¥3,500
アンネ・ソフィー・フォン・オッター メゾ・ソプラノ リサイタル
5/2(金)18:30開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,500 P席¥3,000
「茨城の名手・名歌手たち 第14回」出演者オーディション
5/11(日) 入場無料 詳細はお問い合わせ下さい。

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート
4/6(日)12:00 / 13:30 4/12(土)13:30 / 15:00
4/13(日)12:00 / 13:30 5/25(日)12:00 / 13:30
ヴァリエーションズ 茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場する演奏会シリーズ
4/27(日)12:00 / 13:30 県立水戸第三高等学校音楽科
5/17(土)13:30 / 15:00 ヴァイオリン:三上 亮 ピアノ:中村佳代
ゴールデンウィーク・スペシャル 親子で楽しむオルガン・コンサート
5/4(日)12:00 / 13:00 5/5(月)12:00 / 13:30 浅井美紀
入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

野村万作抄 11「木六駄(きろくだ)」「佐渡狐(さどぎつね)」
4/5(土)13:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥2,000
柳家小三治独演会
4/19(土)18:30開演、4/20(日)14:00開演 料金(全席指定):¥2,500
ACMアトリエ公演『スリッパ、誰の?』
会場:水戸芸術館アトリエ
5/2(金)19:00開演、5/3(土)19:00開演、5/4(日)14:00開演、
5/9(金)19:00開演、5/10(土)19:00開演、5/11(日)14:00開演
料金(全席自由):¥500
劇団唐組新作水戸公演『泥人魚』
会場:水戸芸術館広場特設紅テント(雨天決行)
5/16(金)19:00開演、5/17(土)19:00開演、5/18(日)19:00開演
料金(全席自由):一般¥3,000 団体(10名以上)¥2,700 学生¥1,500
3/29(土)チケット発売

現代美術センター

椿昇「国連少年」
3/23(日)~6/8(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日ただし5/5(月)開館・翌5/6(火)休館
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な4・5月の演奏会

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166 中丸三千繪&スロヴァキア国立放送交響楽団 4/7(月)18:30開演
ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122 城戸範子 ヴァイオリンリサイタル 4/12(土)14:00開演 (問)城戸 TEL / 029(231)2004
日シビックセンター TEL / 0294(24)7711 第13回 ひたち出身者によるコンサート 音楽の園 4/6(日)14:00開演 カルミナ・ブラーナを唱う会 4/20(日)15:00開演
ギター文化館 TEL / 0299(46)2457 長谷川きよし コンサート 4/27(日)15:00開演 コンジュント・ホーダ・ジ・ショーロ コンサート 5/3(土)15:00開演 詩とギターのコンサート 5/4(日)15:00開演
パホール TEL / 029(852)5881 幸田聡子 ヴァイオリンリサイタル 5/9(金)18:30開演 (問)つくば都市振興財団 TEL / 029(856)7007

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2003年4月発行 第89号
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中嶋美智代 中村 晃 馬場千恵
松田善幸 矢澤孝樹(編集長)
DTP / office west
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...「メンコン」ATMで初演??